

平成 24 年度社会貢献プロジェクト

震災支援プロジェクト「東北 3 県柔道指導キャラバン」

増地克之(体育系・講師)

岡田弘隆(体育系、准教授)、山口 香(体育系、准教授)、桐生習作(体育系、特任助教)

(1) 課題の背景及び活動の目的:

東日本大震災から1年が過ぎ、道場再開の動きがみられる。他方、学習指導要領の改訂に伴い、柔道などの武道が必修化される運びとなり、体育教員の武道の指導力向上が望まれる。

そこで、柔道教育の伝統を誇る本学柔道研究室の教員ならびに柔道部員、更にはオリンピック級 OB・OGらが中心となり、被災した東北3県(岩手・宮城・福島)の柔道場を巡回し、子どもを対象とした柔道教室を開催する他、体育教員への講義と実技講習を通して、柔道指導法の要点について丁寧に指導伝授する。

(2) 実施内容:

平成 25 年 1 月 13 日(日)10 時より、時習館(岩手県大船渡市盛町中道下1-1)において、子ども達を対象とした柔道指導を行った。本学からは引率として筆者、桐生習作、嵯峨寿(体育系、准教授)、萩島忠(体育センター専門職員)の4名、選手として平岡拓晃(体育学専攻2年次、了徳寺学園職員)、山本小百合(体育専門学群4年)、武井嘉恵(同左)、西山雄希(体育専門学群3年)の4名、合計8名が派遣された。筆者が指導及び全体の進行を司り、①挨拶、②準備運動、③各選手の得意技紹介とその練習、④元立ち乱取(2分×10本)、⑤講話を実施した。12時30分に整列・礼を行い、練習を終了した。練習の前後、ケガや体調不良を訴えた子どももいなかった。



時習館外観

(3) 成果

本事業は地元の子ども達を対象とした柔道指導であり、参加した子ども達の内訳は以下の通り。

- ① 時習館:17名(男子10名、女子7名)
- ② 大迫柔道スポーツ少年団:13名(男子7名、女子6名)
- ③ 大船渡市立大船渡中学校:6名(男子2名、女子4名)
- ④ 大船渡市立大船渡第一中学校:16名(男子11名、女子5名)
- ⑤ 大船渡市立赤崎中学校:2名(男子2名)
- ⑥ 岩手県立大船渡東高等学校:1名(男子1名)
- ⑦ 岩手県立大船渡高等学校:12名(男子8名、女子4名)

(4) 今後の展望

次年度以降も本学柔道方法論研究室の教員、柔道部員、さらには OB・OG が中心となり、被災した東北 3 県(岩手・宮城・福島)の柔道場を巡回し、子どもを対象とした柔道教室の開催及び体育教員に対する講義と実技講習を通して、柔道指導法の要点について丁寧に指導・伝授していきたい。



背負投の指導(平岡)



子ども達との乱取



時習館の子ども達と